

春風秋雨相

江利川毅 県立大理事長



明けましておめでとうござります。今年は平成という元号をフルに使える最後の年です。

私は総理官邸勤務を二度経験

し、一度目の時に昭和天皇御在

位六十年の記念式典に関わり、

二度目の時に平成天皇御在位十

年の記念式典の事務方の責任者

として関わった。それだけに平

成の時代が節目を迎えることに

特別な感慨を覚える。

■日々に新たに

今年は明治150年に当た

る。江戸末期から明治10年までの至る変革の時期を明治維

新といっているが、維新と革命

について故安岡正篤先生は次のよくな解説をしている。

国家の創業垂統がどういう

明治150年

先人の心構えに学ぶ

ふうに保業守成されていくのか。田滑に、活発に、常に新たに、即ち「日に新たに、日々に新たに、また日に新たに」

維新が常に新たにといふことであるなら、われわれも日々の生活の中に維新的精神を持たなければいけない」とになる。引用の「日に新たに

埼玉出身の偉人鷗澤榮一翁の「論語」に、弟子の仁に

物にして、人は之を行ふもののかどうかは知らないが、今年のNHKの大河ドラマの主人公は西郷隆盛である。

西郷隆盛も、明治維新的激動期にかかるべき役割を果たすよう、天がその役割を終えるまで

ら生ずる思い切った政策の断行、「これがあつて初めて明治維新が成功した（「運命を創る」より）。維新というのは絶ざる創造である（「人物を創る」より）。

明治150年が影響している物にして、人は之を行ふもののかどうかは知らないが、今年れば、天を敬するを目的とす。

西郷の座右の銘は「敬天愛人」である。「南洲翁遺訓」に次の一節がある。「道は天地自然の

工知能）やI.T（モノのインターネット化）、ICT（情報通信技術）、仮想通貨など、科学の進歩が人知を超えていき、うで、希望と不安が入り混じつたような気持ちになる。こんな時こそ、人間がしっかりと生きる時がある。

スムーズにゆく、「これが維新である。大きな変革を免れぬ場合、いわば外科的手術をやつて初めて命をつなぐ、これ

が革命である（「人生の大則より」）。

西郷の言葉は第二臨調を主導しての質問に対し、孔子の答えがいくつか載っている。その一つに「人を愛す」がある。そしてこの「愛す」は今日の用語では

「労わる」の意味に近いという解説があった。西郷の「人を愛す」もこれに近い意味ではないかと思う。

西郷隆盛の人となりは「南洲翁」。新しい年を迎えると、気が引く。西郷隆盛の人となりは「南洲翁」。新しい年を迎えると、気が引く。（次回は2月19日付）

西郷の心構えを学び、自らの生き方の鑑とするのもよいのではないかと思う。特に若い人たちには、尊敬

する先輩諸兄の生き方を学びながら、精いっぱい頑張ることの意義と、その結果としての充実感を体得してもらいたいと思

う。（次回は2月19日付）